Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2017年４月）

発表日：2017年６月７日（水）

～ＣＩ一致指数が大幅に上昇～

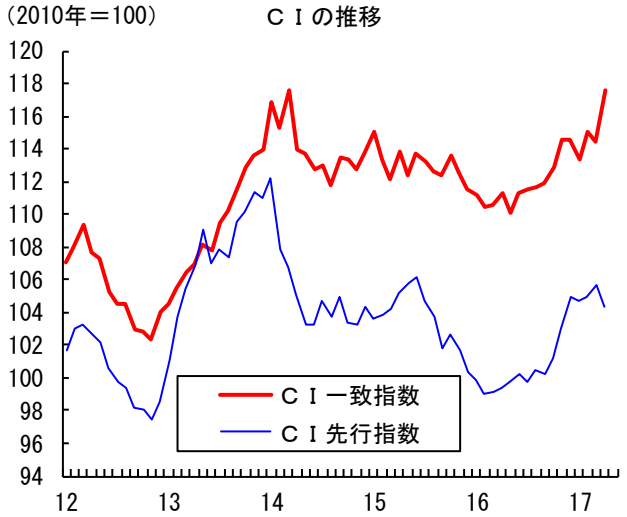
第一生命経済研究所　　経済調査部
担当　主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から公表された 2017 年４月の景気動向指数では、ＣＩ一致指数が前月差＋3.3 ポイントとなった。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数などの生産・出荷関連系列が大きく押し上げている。

１月のＣＩは前月差▲1.3 ポイント、２月は＋1.7 ポイント、３月は▲0.6 ポイント、４月は＋3.3 ポイントと、このところ非常に振れが大きい。①中華圏の春節の影響で輸出が撹乱されたこと、②ゴールデンウィークの影響で４～５月の季節調整が上手くかかっていない可能性があること、などから鉱工業生産指数が大きく振れており、その影響でＣＩ一致指数も変動が大きくなっている。生産予測指数から推測すると、ＣＩ一致指数は５月に再び低下、６月は持ち直しになるとみられ、振れの大きい展開はまだ続きそうだ。ただ、こうした振れを均してみると、ＣＩ一致指数は着実な上昇傾向にあることは疑いない。輸出の増加を主因として、景気は好調さを保っている。

また、４月のＣＩ先行指数は前月差▲1.2 ポイントと３ヶ月ぶりに低下した。生産財在庫率指数や消費者態度指数などが押し下げに寄与している。このところ在庫率が上昇している点が気にかかるが、これは自動車の在庫増による一時的なものとみられ、特に問題ないだろう。ＣＩ先行指数も、16 年２月を底とした持ち直し傾向が続いていると評価して構わない。

内閣府によるＣＩ一致指数の基調判断は、７ヶ月連続で「改善」となり、景気が回復傾向を続けていることが示された。３月に▲0.07 とマイナスに転じたていた３ヶ月移動平均前月差の値も、４月には＋1.47 と再び大幅なプラスに戻っている。先行きについても、輸出の増加が続く可能性が高いこと、経済対策効果の顕在化から公共投資が増加すること、企業収益の増加を受けて設備投資が回復することなどを背景に、景気は今後も着実な回復傾向を続ける可能性が高い。３ヶ月移動平均前月差の値もプラスが続くとみられ、ＣＩ一致指数の基調判断も「改善」が継続するだろう。



（出所）内閣府「景気動向指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。